★出久根育『チェコの十二ヵ月』ギャラリートーク★

「五感で感じる、絵描きのチェコ暮らし」

チェコはどんな国？出久根さんの目に映るチェコの魅力は？

2002年、30代でチェコに移り住んだ画家の出久根育さんは、ウェブエッセイ「プラハお散歩便り」https://www.rironsha.com/dekune/に日々思うことを綴ってきました。

その中から昨年暮れ、フォークロアを中心にチェコの暮らしを描いたエッセイに加筆した『チェコの十二ヵ月』にまとまりました。

このたび、ご帰国に合わせ原画展を開催する共に、出久根育さんにたくさんの写真をお持ちいただき、15年以上のチェコ暮らしを振り返りながら、『チェコの十二ヵ月』の誕生制作秘話などと共にお話しいただきます。是非ご参加くださいませ！

日時：2018年9月28日（金）19:00～20:00 （終了後、サイン会開催）
参加費：1,000円
場所：ブックハウスカフェ（千代田区神田神保町２－５　北沢ビル）
申込み：店頭・メール：book@bookhousecafe.jp TEL：03-6261-6177

『チェコの十二カ月 - おとぎの国に暮らす - 』
出久根育さん原画展

『チェコの十二カ月』の描き下ろし原画（ペン画を除く）全点展示、
秋を彩る『かえでの葉っぱ』（数点）も展示されております。

会期：9/26(水)～10/16(火)※期間中無休
場所：ブックハウスカフェギャラリー（左奥の個室）
営業時間：平日11：00～23：00（土日祝は～19：00）

定価（本体1,500円＋税）
理論社刊　A5変型版上製・112頁

『チェコの十二カ月–おとぎの国に暮らす–』

2002年にプラハに移り住んだ絵本作家がチェコでの日々を綴るエッセイ集。歴史の魅力が生活の中に息づくチェコで、復活祭、謝肉祭、クリスマスから、キリスト教以前の素朴で古い風習まで、季節を彩るフォークロアを中心に活写します。お芝居、隣人とのやりとりなど今のチェコの暮らしも。描き下ろしのイラスト多数収録。巻末にチェコの年中行事資料掲載。

出久根 育（でくね いく）

1969年東京生まれ。武蔵野美術大学造形学部卒業。2002年よりチェコのプラハ在住。グリム童話の絵本『あめふらし』でブラティスラヴァ世界絵本原画展グランプリ受賞。絵本に『おふろ』『ペンキや』『ワニ』『マーシャと白い鳥』『十二の月たち』『かえでの葉っぱ』『もりのおとぶくろ』など。